

# 2021（令和3）年度 相模原看護専門学校 一般入学試験

## 国語

（試験時間 50 分 配点 100 点）

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答する途中で、ページの落丁・乱丁や印刷不鮮明の箇所および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
3. HBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムで完全に消してからマークしてください。
4. 氏名を記入し、番号欄を正しくマークしてください。
5. 試験終了の合図と同時に解答を止め、鉛筆を置いてください。
6. 解答用紙は試験官の指示に従って提出してください。

問題一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

もう一度路上から考え直す。

<sup>1</sup>路上観察をしているうちに、路上物件の面白い写真がたくさん溜ってくる。その報告会をときどきおこなっている。スライド写真を使つての講演会である。現代の佗<sup>わ</sup>び寂<sup>さ</sup>び物件がほとんどで、その見せ方のところで微妙に面白い問題があるのである。

その物件の写真だけ見てもらえばいいかというと、それでは何がどう面白いのかわからないのが多い。どうしても解説の言葉が二、三必要である。それに写真だけを提示すると写真作品となつてしまい、つまり芸術のスタイルにはまり込んで面白さがなくなつてくる。その物件を右から左から考察する自由度がなくなり、写真作家という沈黙の存在が障害物のようにならわれない。とにかくそれが物件の報告ではなくなつてくるのだ。

路上観察はまず物件（現実現象）の観察であり、写真鑑賞ではない。だからそのスライドは物件の報道写真である。しかしその物件自体が佗<sup>わ</sup>びや寂<sup>さ</sup>びの味わいといったものをどこかに含んでいるものなので、これは報道でありながら微妙に作品写真の要素も含み込んでいるという妙なものである。

とにかく見る写真と知る言葉とが必要なわけで、写真と短い文章とで雑誌などでも報告している。<sup>2</sup>印刷メディアでも充分伝わると思つていたのだが、あるスライド講演会るとき、終つてから聴衆の一人がやつてきて、

「いままで雑誌などで見ていてももう一つピンとこなかったのだけど、今日のスライドによる話でやつと意味がわかりました」

というのである。

なるほど、そうかと思ひ、こちらがまた膝を打った。お茶室で客を迎えた利休のような気持になつた。

というのは少々調子がよすぎるだろうが、お茶室空間の価値というのがチラとよぎつた。

なるほど、活字の言葉だけでは伝えられず、目の前にいる人の話によつて伝わるものが確かにあるのだと。

もちろんそれは当り前のことだが、そのことが手に取るようにわかるのだ。その人は雑誌でも同じ写真を見ているのである。そしてしゃべつたのと同じ言葉を読んでいるのである。でも <sup>3</sup>それだけでは通じていなかったのである。その情報としてはほとんど同じことを、もう一度この会場で現場的に居合せることによつてピンと通じてしまったのだ。

会場では一つのスライド写真にみんなが集中している。そしてこちらの話にみんなが笑う。路上観察ではこの笑いが重要なエネルギーとなっている。**a** 潤カツ油**と**いった方がいいかもしれない。笑っている間にストーンとそのものを **b** ナツ得**して**しまうのである。

一つの会場の全員が共通の一点に集中して一つの理解に届く、ということでは、宗教の集会やお茶室での一味同心といったものと非常によく似ている。ただ路上観察の報告ではときどきいっせいに大爆笑が起り、その隙を狙いすました火事場泥棒のように一挙に理解が駆け抜ける、という点が少々違うところかもしれない。

笑いとはかくとしても、現場での肉声の話はときどきよんだり、先走ったり、言葉の選択のところで躊躇したり、そういった裁判所の書記官の記録には残らないような微妙なゆらめきが、もう一つの重要な伝達機能として、**c** ショク媒**の**ような役割を果しているらしいのである。まして路上観察のような、吹けば飛ぶような、あってもなくてもどちらでもいいような、しかしあるので見てみると妙な面白さがくっついていて、しかもそれがこの世でまるではじめてのメッセージを抱え込んでいる、といったナイーヴな意味を掬い上げるには、活字言葉はどうにも固すぎるということを実感するのである。まったく不可能ではないけれど、活字言葉でそれをやりとりするには送り手と受け手の双方が大変な技倆を必要とする。

道の日というのが制定されて、その記念シンポジウムに呼ばれた。建設省の人や道路公団の人や大学の建築の方の先生やとにかく大変な顔ぶれで、私はいつものように路上観察のスライドによる講演をして笑ってもらった。終って控室に戻ったとき、どの先生だったか、路上観察を **d** 実ケン**する**のははじめてだったようで、にこにこ笑っていた。そして、

「あれは、一種の他力思想ですね」

と言われたのである。

他力思想。

これまで仲間と話し合いながら「佗び」という言葉は出ていた。利休らの美意識と **e** 通テイ**する**ものは感じていたのだ。しかし他力思想という言葉ははじめてである。

そもそもは宗教用語だろうが、自力と他力とあることは知っている。こちらは何しろ「自立」という言葉にあおられた経験があり、また戦後の自主独立の思想に育てられたこともあって、自力と他力と二つ並べると、どうしても「自」の方に立たなければ

ばと思うのである。西欧文明は何といっても「自」によってふくらんできた。日本もいまはそのふくらみに入ろうとして、懸命に「自」を持ち上げている。従って自力こそ發揮すべきもので、他力を待たずともしようがない、というふうに考えてしまうわけなのである。<sup>4</sup> だからこのところの自分のおこないを「他力思想」といわれて軽いショックを受けた。

なるほど、こんなことだったのかと、はじめて水に浮くことができたときのようなショックである。自分はもう他力思想をもっているのだ。(註) トマソンや路上観察物件は、自分で作るものでなくすべて他人が作ったものである。その他人にしても、自分の知らないところで出来てしまったようなものである。それを歩きながら見つけて、写真に撮って眺める、ただそれだけのことだ。すべては他力によって成されたことで、他力のエネルギー変化を見ているだけで、その解釈以外に自力による働きかけはどこにもない。

考えてみれば、そもそもは自力創作の不毛を見たところから、他力の観察発見に転じているのである。だから路上の物件を見ても、それが無意識的に作られたものほど面白い。こちらに向けて作られたものは、おうおうにしてうるさい、暑くなるしい、どうしても避けてしまう。

利休の言葉に、

「<sup>5</sup> 侘びたるは良し、<sup>6</sup> 侘ばしたるは悪し」

というのがある。それは路上観察をやつていればおのずからわかることだ。人の恣意を超えてあらわれるもの、そこにこそ得がたいものを感じる。利休の言葉もそれを指している。人の作為に対して自然の優位を説いているのだ。

そうすると、利休にも他力思想の反映があると考えてもいいのだろうか。

切腹という大変なことをしてしまっているのが恐れ入るが、その中にも他力思想が挟み込まれているのが見えるように思う。

あの時代、切腹を **A** じられたことを、死を **B** わる、というこれ自体他力思想の形であり、それがしかし政治利用によって形式と **C** しているのだが、利休はそれをもチャンスとして受け入れているように見えるのだ。もちろん人の死はみなチャンスである。人はそのチャンスによってこの世を **D** する。だけど人はおうおうにして、それをチャンスとしてはとらえきれない。利休はそれをチャンスとして待ち構えていた、とはいわないが、北政所ほか秀吉側近からの助命運動があったものの、しかし自分からの詫び言は発することなく、無言のうちにその事態を受け入れた。切腹を **E** したことでそこに利休の意志の力

を見るのがまっとうであるが、しかし秀吉の暴力をも自然の力として見ていたふしもないわけではない。

利休の美意識の中には偶然という要素が大きくはいり込んでいる。これは重要なことだ。偶然を待ち、偶然を楽しむことは、他力思想の基本だろう。私はそこに、無意識を楽しむという項目を付け加えたい。

<sup>7</sup> 利休はいつも臨床的にものごとを考えている。自分から動く、というふうではないのである。じっとしていても、ものごとは目の前にやってくる。そこではじめて自分が対応して何ごとかを成す。秀吉が平鉢と梅を持つてくる。生けてみよという。平らな鉢に生けられるわけがない。しかし利休は立って、その梅の枝をしごいて水面に梅の花を散らす。そのときの利休の意志にはなみなみならぬものがある。しかしそれは意志というより、常に自然を受け入れる利休の体を、平鉢と梅もまた通り抜けて行ったということだろう。

偶然も無意識も、それは自然が成すことである。それに添って歩くことは、自然に体を預けることだ。他力思想とは、そうやって自分を自然の中に預けて自然大に拡大しながら、人間を超えようとするのではないかと思う。私もまたそうやって拡大した自分の体の自然の中で、拡大した利休に出合ったのだった。

(赤瀬川原平『千利休 無言の前衛』より)

註 トマソン＝路上観察の一つ。街中に存在する美しく保存されている無用の長物のこと。

問一 傍線 a～e のカタカナと同じ漢字を使うカタカナを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。解

答番号は a ||  ・ b ||  ・ c ||  ・ d ||  ・ e ||  。

a 潤カツ油

- ① キツ粋の江戸っ子。
- ② クツ強の守り。
- ③ ケツ構なお手前。
- ④ コツ稽な演技。
- ⑤ セツ速な行動。

b ナツ得

- ① 仏像を奉ノウする。
- ② 色のノウ淡を表現する。
- ③ 離ノウ者が増える。
- ④ 演奏を堪ノウする。
- ⑤ 煩ノウを無くす。

c ショク媒

- ① 修ショク語を削る。
- ② ショク財に努める。
- ③ 腹部をショク診する。
- ④ 土砂が浸ショクする。
- ⑤ 細胞を染ショクする。

d 実ケン

- ① ケン虚な性格。
- ② 意見がケン隔する。
- ③ 社員を派ケンする。
- ④ 私ケンを述べる。
- ⑤ 経ケンを生かす。

e 通テイ

- ① 命令にテイ抗がある。
- ② 存在を仮テイする。
- ③ 思考の過テイを述べる。
- ④ 新案をテイ言する。
- ⑤ 調査を徹テイする。

問二 傍線1「路上観察」の説明に合致する選択肢を次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解答番号は 。

- ① この世でまるではじめてのメッセージを抱え込んでいる物件を写真作品として報告すること。
- ② 路上物件の面白い写真を活字言葉の送り手と受け手の双方で芸術作品に仕上げること。
- ③ あってもなくてもいいような物件を写真と文章で報告する報道写真のこと。
- ④ 現代の侘び寂び物件に利休の精神を見い出して写真と活字で報告すること。
- ⑤ 路上物件の写真の面白さを右から左から考察して自由な芸術として捉えること。

問三 傍線2「印刷メディア」に必要な要素は何か。次の①～⑦のうちから二つ選び、マークせよ。解答番号は ・。

なお、解答の順序は問わない。

- ① 面白さ
- ② 自由度
- ③ 情報
- ④ 写真
- ⑤ 味わい
- ⑥ 文章
- ⑦ 聴衆

問四 傍線3「それだけでは通じていなかった」のはなぜか。その理由として不適切なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マ

クせよ。解答番号は 。

- ① 路上観察の物件を報告する場合、活字媒体では固すぎることを実感したから。
- ② 路上観察物件を講演会場で報告する場合、時に大爆笑が起こり、一挙に理解が進むことがあるから。
- ③ 路上観察の物件を雑誌などで報告する場合、裁判所の書記官の記録には残らない微妙なゆらめきが伝わるから。
- ④ 路上観察の物件を雑誌などで報告する場合、送り手の意図を十分に伝えるためには受け手もふくめた双方の能力が必要となるから。
- ⑤ 路上観察の物件を講演会場で報告する場合、全員が共通の一点に集中して理解に届くことがあるから。

問五 傍線4「だからこのところの自分のおこないを「他力思想」といわれて軽いショックを受けた」の理由説明として最も適

切なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解答番号は 。

- ① 自分の活動は、他人が作ったものを見つけて眺めるだけのことになり気がさわされたから。
- ② 戦後の自主独立の思想に育てられたことを否定されて衝撃を受けたから。
- ③ 歩き、写真に撮って眺めることの創造性に気づかされたから。
- ④ 他力よりも自力の方に立たなければならぬのに、それができていない反省から。
- ⑤ 西欧文明をとり入れてきた日本の発展を無視していることを指摘されたから。

問六

傍線5「侘びたるは良し」、傍線6「侘びたるは悪し」の内容に相当する語句をそれぞれ次の①～⑥のうちからすべて、  
を使って選び、マークせよ。なお、5、6を選ぶ数は同数とは限らない。解答番号は  ∥  ∥ 。

- ① 他力のエネルギー
- ② 自力創作
- ③ 無意識的
- ④ 人の恣意を超えてあらわれるもの
- ⑤ 人の作為
- ⑥ 自然の優位

問七

∥  には漢字一字が入る。それぞれ次の①～⑤のうちから一つずつ選び、マークせよ。解答番号は  ∥ 。  
B ∥  ∥ C ∥  ∥ D ∥  ∥ E ∥ 。

- ① 墮
- ② 賜
- ③ 脱
- ④ 果
- ⑤ 命

問八

傍線7「利休はいつも臨床的にものごとを考えている」について、ここで筆者が考えている「臨床的」の意味から外れる、  
ものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解答番号は 。

- ① 自然
- ② 偶然
- ③ 無意識
- ④ 意志
- ⑤ 他力思想



問九 「利休」と関係が深いものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解答番号は

- ① 茶道
- ② 華道
- ③ 武道
- ④ 香道
- ⑤ 医道

19。

問題二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私は今年正月元旦に、実に珍しいことだが友人の家を訪ねた。しかし、年始の挨拶ではなく、会わなければならない用があった。私は出がけに、その友人のところへ確か小学四年生になる元気のいい男の子がいることを思い出したので、三冊ほど書店から送って来た日記帳のうちから中型のものを選んでその子供に持って行った。学校へ出す日記はきまった帳面があって、それに書かなければならないことになっていると思っただけから、これ日記帳だけだいたずら書きでもなさい、といって、**a** エン先の日なたに腹這いになって年賀状を書いていたその子に渡した。そういう日記帳はまだ貰ったことがないと見えて **b** 大ソウ悦び、めくって見ても仕様のない白い一枚一枚を、大人もやるようにめくっていた。

それを脇から見ている奥さんが、何か書くことを決めて、**c** 無~~外~~にしてはいけませんよ、といった。その子は、最近友人に、私が自分の詩集を送ったことを知っているらしく、暫らくばらばらやっていたが、ちらつと私の顔を見て、毎日詩でも書くかなといながら舌を出して首を縮めた。毎日詩が一つずつ出来たら大したものだと友人がいったが、私は毎日とは思わなくとも自分の家に残っている日記帳を詩の下書きに使おうかと思っていたところだったので妙なおかしさを感じた。

子供は何も書いてない縦野の紙とにらめっこをしながら、だんだんに決心をかためているらしくも見える。そして、今日は元日だから希望の詩を作るかな、とそんなことをいった。その子も一緒になってみんな笑ったが、友人の奥さんは後でいやな顔をして、この子も手垢のついた言葉を使うようになって……といながら何処かへ立って行った。この四年生に、母親のその言葉がどんな風に聞えたか分からないが、私は手垢のついた言葉と<sup>1</sup>いい方を面白いと思ひ、それを借用することにした。

元日であることから直ちに思いついた希望という言葉、手垢のついた言葉というのはなかなか凝ったいい方で、**A** とか、**B** とか、**C** のことである。しかしそれをそういわずに、手垢のついた言葉と<sup>2</sup>いったところにこの奥さんがいかにも手垢のついた言葉を嫌う **d** サイ心の注意が払われている。それを **e** サン美するつもりでこの文章を書き出した私は、余程気をつけてかからないと、自分で手垢のついた言葉を使う危険がある。

私は自分で文章を書きながら、さまざまの要素を考え、またさまざまの技巧を考える。これは今更いうのも愚かなことに思われるが、自分の考えや気持、そうして広い意味での心境のほかに、自分が冷静に観察したものを、その通りに、余計な **1** 粉飾を避けて他人に伝えることが目的なのであるから、そのためにはどんなに苦勞を重ねても構わないと思うし、一種の機械になって

しまうことを一番おそれる。古くからの<sup>2</sup> 修辭学の本に書かれたことを引合いに出すと込み入って来るし、またその必要もないが、文章を芸術的な表現手段として考えたい私は、それを基にして、いわば非芸術的な文章、あるいは非芸術的な言葉使いというものが目に付く。それが悪いというのではない。例えば、エルネスト・ルナンが科学的文体といったものは、それが立派に洗練された場合であって、こんな風にいわれる。「よい科学的文体の規則は明晰<sup>めいせき</sup>ということである。主題に対して完全に順応し、自分自身を完全に忘却し、絶対に自己を放棄するということである。しかもこれこそ、どんな材料を取扱おうとも、すべてよく書くためには守らなければならない規則でもある……」

私は、<sup>3</sup> 自己放棄ということ<sup>3</sup>を、このことはやや違った意味で非常に大切なことだと思っている。しかしそれはむしろ表現する以前のプロセスとして持つていたいことであり、自分を棄て、主題に語らせるとき、芸術的な味はどうしても期待出来ない。論理は重要な基礎であることを知っているが、<sup>4</sup> 非個人的な言語を私の仕事の理想とはしたくないのである。

この非個人的言語という言葉を使ったのは、『社会学上から見た芸術』を書いたジャン・マリ・ギョオオであるが、この人の次の言葉を私は時々思い出すのである。

「純粹に論理的な文体はもろもろの觀念の中に連絡を作り出すようにのみ努力する。ところが詩や文学における文体はそこに有機的組織を、生物体のそのような平衡と釣合とを作り出すように努力する。一方はその理想を示すのに線の連続の姿をもってすることが出来、また他方は、あらゆる種類の曲線をとって咲いている花の姿を以ってすることが出来る。作家の意のままに読者の関心に共感を呼びさますためには、文章は生ききものとなっていなければならない。」

有機体というものは、それを構成している各部分が、実に密接に依存し合っているものだと思うし、それによって生命があり、息吹きも感じられるのだと思う。

そこで私はもう一度手垢のついた言葉へ戻らなければならないが、この種の言葉は、それが使われることによって文章が生命を失う。使われるといつてもその場所を得ていないために文章が腐るのである。友人の家の子供がああ時に使った希望という言葉は、使い方に誤りがあるわけではなく、希望という言葉自身に手垢がついているのでもない。また、子供が、少々大人っぽい希望などという言葉を使ったために、憎みがたいなまいきさが出ていて、みんな笑ったのであるが、私はやはりそこに警戒しなければならぬものがあると思う。

紋切型の文章又は言葉は、文章の有機体としての依存関係から定められることがあるからそれを分類しながら、例をあげてみるようなことは出来ない。けれども、それを避けるための用心として、文章の有機体とか、あるいは芸術性などを考える一方、もっと具体的に表現されたものから<sup>5</sup>それを感じることは幾らでも出来る。それは勿論名詞ばかりではない。

人は晴れ渡った星空を見て、ぴかぴかとか、宝石をちりばめたようにとかそういう風にしか感じられない筈はない。子供の作る作文、詩などが、大人には望み難い独創的な、また空想性に富んだものに見えるのは事実である。だがそれは、子供の空想力が強いことよりも、まだ、人々が一番多く使う言葉をはつきりと知らないため、知っている語彙は少なくとも、自分が感じ取ったものに対して正直であり、正直の限界を守りながらそれを表現する言葉をさがすからである。

(串田孫一『人生と生活』より)

問一 傍線 a～e のカタカナと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。解答番号は a ㉒ 20 ・ b ㉒ 21 ・ c ㉒ 22 ・ d ㉒ 23 ・ e ㉒ 24 。

- a エン先 ㉒ 20
- ① 学校のエン革を調べる。  
 ② 他にない奇エンだ。  
 ③ エン天下を走る。  
 ④ エン庭を歩く。  
 ⑤ 舞台上で助エンする。

- b 大ソウ ㉒ 21
- ① 借金をソウ殺する。  
 ② 山ソウで過こす。  
 ③ ソウ好を崩す。  
 ④ 前代未聞のソウ挙だ。  
 ⑤ ソウ雲を見上げる。

- c 無ダ ㉒ 22
- ① おダ賃をせがむ。  
 ② ダ落した姿。  
 ③ ダ撲傷の診断。  
 ④ 長ダの列。  
 ⑤ ダ性をやめる。

- d サイ心 ㉒ 23
- ① サイ色をほどこす。  
 ② サイ適な選択。  
 ③ 織サイな配慮。  
 ④ 要サイにこもる。  
 ⑤ サイ会を喜ぶ。

- e サン美 ㉒ 24
- ① サン下に収める。  
 ② 男女がサン画する。  
 ③ 協サンを得る。  
 ④ サン顧の札を尽くす。  
 ⑤ サン財をいとわない。

問二

A・B・Cに入らない言葉を次の①～⑤のうちから二つ選び、マークせよ。解答番号は  ・  。

なお、解答の順序は問わない。

- ① 間違った言葉    ② 俗っぽい言葉    ③ 大げさな言葉    ④ 紋切り型な言葉    ⑤ あり触れた言葉

問三

傍線1「粉飾」を使った表現としてふさわしいものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解答番号は  。

- ① あの女優は美容整形で顔を粉飾した。  
② あの企業のビルは粉飾して建設された。  
③ 新製品を粉飾して開発した。  
④ 赤字の決算を粉飾して黒字と報告した。  
⑤ 首相は今後の方針を粉飾して演説した。

問四

傍線2「修辞」を外来語で表現するときふさわしいものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解答番号は  。

- ① レトリック    ② パラドックス    ③ メタファー    ④ ロジック    ⑤ リテラシー

問五

傍線3「自己放棄ということ」を説明するときふさわしくないものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解答番号は  。

- ① 自分の感情を入れないこと。    ② 主観を入れないこと。    ③ 客観的な態度をとること。  
④ 主題を尊重すること。    ⑤ 自負心を持たないこと。

問六 傍線4「非個人的な言語を私の仕事の理想とはしたくない」理由としてふさわしいものを次の①～⑤のうちから一つ選び、

マークせよ。解答番号は 。

- ① 作家が自分の個人的な経験だけを文章に使っても、読者が感動するとは限らないから。
- ② 作家が読者に感動してもらうためには、文章が生きものとして受け入れられる必要があるから。
- ③ 作家は論理的な文体よりもむしろ、線の連続の姿を読者に示し関心と呼び覚ますべきだから。
- ④ 作家が構築する詩や文学の文体は、花の姿を理想として読者に届ける必要があるから。
- ⑤ 作家が表現するということは、自分を棄ててはじめて読者に芸術的な味わいを届けられるから。

問七 傍線5「それ」が指すものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解答番号は 。

- ① 警戒しなければならないもの
- ② 紋切り型の文章又は言葉
- ③ 文章の有機体としての依存関係から定められること
- ④ 文章の有機体とか、あるいは芸術性
- ⑤ もっと具体的に表現されたもの

問八 筆者が文章を書くときに配慮していることとして、ふさわしくないものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解

答番号は 。

- ① 文章は、冷静に見たことをできるだけそのまま届けるべきだ。
- ② 文章には、芸術的な味わいが必要である。
- ③ 感情を伝えることが、文章の生命であり息吹となる。
- ④ 純粋な論理的な文体だけでは、詩や文学は成立しない。
- ⑤ 手垢のついた言葉を使わないように配慮している。

問九

筆者が、本文の後に書き続けていると考えられる内容を次の①～⑤のうちから一つ選び、マークせよ。解答番号は 

33
----

。

- ① 言葉を教育するとき、幼いものなりに持つている考え、感じ、意欲などを偽って表現させないことである。
- ② 国語教育によって言葉を豊富にすることは大切だが、同時に正直な言葉を使える精神形成が重要になってくる。
- ③ 子どもが無理をして大人びた言葉を使ったときには、子どもを傷つけないように適切な言葉の使い方ができるように誘導していきたい。
- ④ 子どもの個性は言葉の使い方表れるので、手垢のついた言葉や紋切り型の言葉を使わないように大人が範を示したい。
- ⑤ 言葉を使うということは生命を表現することなのだから、子どもの生命力を生かせる言語教育法を模索していきたい。

《以下余白》